

「DPC 病院と連携の濃厚な医療機関・施設に対する調査」：2 次調査票

《A》 院長殿

「DPC 病院との連携における職員意識調査」のお願い

この調査は、中央社会保険医療協議会での審議を経て、診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会内に組織した「医療連携と退院後受療に係る調査」班が行うもので、DPC 制度が地域医療に及ぼす影響を全国的な規模で調査しているものです。既にこの 2 月末までに、DPC による支払いが行われている病院（DPC が導入されている特定機能病院及び DPC の試行的適用が行われている病院）及び支払いは行われていないが調査に協力いただいている病院（以下「DPC 病院・調査協力病院」という。）のうち 31 の施設の御協力を得て、平成 15 年度における医療連携の実績を調査させていただきましたところですが、この度は、その調査結果をもとに、調査対象の DPC 病院・調査協力病院が密な診療連携を行ったとする医療機関にこの調査をお願いする次第です。

ちなみに、貴医療機関・施設は、DPC 病院・調査協力病院（《B》）の（《C》）と密な診療連携をされておられると当該病院からご報告を頂いております。

そこで、御紹介された患者様の診療にあたられている主だった方々に下記の調査にお答えいただけますよう、お取り計らいのをお願い申し上げます。

調査票は 5 枚を 1 セットとしてお送りしております。お答えいただきます職員としては、入院・入所・外来・通所担当の医師および看護師、MSW、PT、OT、ケアマネージャー、ヘルパー、医事課などの方々が該当致します。お答えいただきます職員のご選択は貴医療機関・施設にお任せいたしますところですが、強弱かわかる職員 3～5 人をお選びいただき、該当 DPC 病院に過剰な配慮をなさることなく、また職員間で過剰な相談等をされないよう、極力、中立的・客観的な判断、をされ、御記入いただきますことを望みます。

なお、この調査は DPC 病院・調査協力病院の各診療科の申告によるものですので、貴機関に複数の調査セットが届く場合が御座います。その場合には、該当する病院名と診療科名をよく御確認の上、それぞれのセットに独立してお答えいただけますようお願い申し上げます。

調査は多数の医療機関を対象とさせていただいており、貴医療機関・施設からの調査結果が直接、該当 DPC 病院・調査協力病院の評価につながるものではありませんことを、また、お答えいただきました内容などについては厳重な取扱いとし、機密を十分に保護いたしますこと、この調査の目的以外に頂きましたデータを利用することは致しませんことをお約束させていただきます。

調査票はセット毎に貴機関がとりまとめ、返信用封筒を用いて一括して当調査班へ御送付下さい、勝手ながら送付期限を平成 17 年 3 月 19 日とさせていただきます。期間も短く、御多用のところ誠に申し訳ありませんが宜しくお願い致します。

診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会「医療連携と退院後受療に係る調査」班  
酒巻哲夫（群馬大学医療情報部教授）-----調査事務局  
池上直己（慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教授）  
熊本一朗（鹿児島大学医療情報管理学教授）  
三上裕司（総合病院東香里病院院長）  
安川林良（松下記念病院院長）